

第7回富田林市観光ビジョン策定委員会

日時	令和2年2月17日 午後2時～
場所	富田林市消防本部 視聴覚室
委員	出席：和泉会長、橋川副会長、松井委員、阪口委員、武田委員、畑中委員、 後藤委員、赤崎委員 欠席：小林委員
事務局	柳田次長兼課長、武部課長代理、佐々木、中山、内藤

議題1 パブリックコメントの実施結果報告について

<会長>

皆さんこんにちは。本日も限られた時間でございますが、委員皆さまのご協力を得て進めてまいりたいと思いますので、最後までどうぞよろしくお願いいたします。

それでは次第に従いまして、議題1のパブリックコメントの実施結果報告について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

●パブリックコメントの実施結果報告について説明。

<会長>

ありがとうございました。実施結果の回答案についてご意見・ご質問はありますでしょうか。

事務局からも説明があった通り、パブリックコメントの内容は、具体的な修正内容ではなく、これからの期待や実働的な内容が盛り込まれており、加筆修正を求めるようなコメントではなかったと思われます。それに対する事務局の回答案を見ると、特に問題はなかろうかと思いますが、事務局の示されている回答案でよろしいでしょうか。

<委員>

(異議なし)

<会長>

ありがとうございます。ではパブリックコメントにつきましては事務局案をご承認いただいたということでよろしくお願いいたします。

議題 2 その他

<会長>

続きまして、議題2のその他でございますが、私の方から1点お話したいと思います。

皆様のご協力により、素案の確定がなされ、パブリックコメント実施を経て現状の状況になっていますが、素案を振り返りながらご覧ください。

冊子の2ページ、「本ビジョンについて」では、ただただ行政の読み物となるのではなく、市民の皆様に伝えていく計画となるよう進めてまいりました。「本ビジョンの活用方法について」にも記載しているように、富田林らしさを見つけ、そして育てる5年間にしたいとの思いから策定した「台本」ということで「第1幕」「第2幕」のような構成にさせていただきました。このような冊子の構成は、登場人物は市民の皆様であるということを意味するものです。

4、5ページの記載からは、観光振興の展開を通じて、富田林市に愛着を持ち、暮らしを好きになってもらう、これまで以上に富田林を好きになってもらう、また、富田林の可能性を提示して、「これなら自分たちも参画できる」という思いを持っていただきたいとの想いを込めた計画であることが読み取れると思われます。ただ、観光事業者だけを意識した計画ではなく、多くの方々に富田林の観光の可能性を感じ、本ビジョンを基にアクションしてもらいたい、発信してもらいたいという想いを込めていただいています。

また、11ページに記載していますDMOにつきましては、適合する地域もあるとは思いますが、ここ富田林市においては慎重に考えるべきではないかと考えるところです。ただし、観光振興を推進する体制づくりの検討作業の中には、当然DMO組織の検討も含まれて良いと考えます。そのような観点から、庁内の検討結果として提示のあったDMOについての記載は認められるものではないかと考えます。

概要版についても少しご紹介させていただきます。「参加して周りの人に伝えてみよう」ということや、「みなさんも気軽にこんなことができますよ」ということを伝えています。私たち一人ひとりにどんなことができるかということを記載しています。こんな観光ビジョンは他にないと思います。みんなでやっていこう、考えていこうということを示していただいています。一大観光地とは異なる、富田林ならではの方向性を示すことができているかと思います。

このようにまとめていただいております。

その他、事務局からいかがでしょうか。

<事務局>

今後の予定についてでございますが、本日をもちまして、観光ビジョンとして内容の確定をいただきましたので、冊子として製本作業に入っていきます。また、冊子の中に策定委員会の委員名を掲載させていただきますので、名簿をご確認いただき、修正がございましたら、ご連絡いただきたいと思います。

また、先ほど会長からご報告がありましたが、概要版については会長とともに検討を進めさせていただきたいと思います。

キャッチコピーについては委員よりご提案いただいております。ご提案いただきました内容については事務局にて、概要版への掲載方法を検討していきますのでよろしくお願いいたします。

<会長>

委員の皆様、別紙の名簿をご確認いただきまして、もし修正があれば後ほど事務局へお願いいたします。

委員からご提案いただきましたキャッチコピーにつきましては概要版に掲載されるということです。キャッチコピーが決まりましたら、委員の皆さまにご連絡いただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。議題2についても終了させていただきたいと思います。

今回は策定委員会の最終回で、これまで2年間という長きに渡って議論を重ねてまいりました。せっかくですので、ご意見ご感想、今後の展望について委員の皆様から一言頂戴できればと思います。

<委員>

富田林寺内町に関しては、随分と空き家が増えてまいりました。実際に見学の際も、日常の生活をされている場合は難しいが、持ち主がいるが空き家については、なんとか活用したいと思っています。

観光ビジョンの中でも、富田林寺内町など、市内の滞在時間が非常に短いということがあったので、どのようにすれば少しでも長く滞在していただけるかを考えていきたいと思っています。民泊の問題など、いろいろと検討していますが、古い家屋に泊まっていたくとなると、内部の改装からしなければならない状況です。他の地域では、1棟、6～8万円くらいで貸し出しているところもあります。富田林の場合、一棟貸しするにしても、部屋の改修が必要であることや、広すぎるという課題もあります。外国の方にとっては布団しかないというのも難しいところがあるのかもしれませんが。せっかくの文化財の建物をどう活用するかについても考えていかなければ、所有しているだけで傷んできたらそれにまた莫大な費用をかけなければならないのは問題があると思います。お金を生み出す施設にしていくことも考え、どう利用していくか、苦慮しているところです。

<委員>

昨年、百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録されたことで、インバウンドは多い状況です。コロナウイルスの関係で停滞していますが、今後も国内外問わずPRが必要だと思います。

全国的に人口が減少していく中で、富田林市の場合、以前はPL学園が有名でしたが、野球部休部後、今は若年層に対して、市のことを知ってもらうことを進めると良いのではないかと思います。具体的にはこのビジョンをどのように発信していくかが今後の課題

ではないかと思います。

<委員>

大阪にはたくさんのインバウンドなど、観光客の方にお越しいただいています。大阪市内はほとんどパンク状態です。そのような方を府内の他地域にいかに送り出すかという部分で、様々な取り組みを継続してやっていきたいと思っています。

今回のビジョンを市民の皆様に読んでいただいて、誰か特定の人が実行するのではなく、自分の作っているもの、日々の生活の中で売り買いされている身近なものでも素材になりうるということをPRしていきたいと思っています。現在は、少し前に爆発的に来てもらった人たちは、より地方の方に向かっていて、台湾・韓国・香港からの観光客が減っている状況にあります。再度、ここは絶対に行かないといけないという素材づくりが必要だと思っています。

<委員>

他の市町村の計画策定業務に参加したこともありましたが、みんなで作ろう・やっていこうというコンセプトではなく、用意したもので発信していこうというものがほとんどです。みんなで考えていこう、つくっていこうというスタンスは良かったのではないかなと思います。旗振る人だけでは前に進みませんし、市民が当事者意識をもっていただいて、前に進めていくという形が良いと思います。

<委員>

今回の計画策定は、2年間かけて、フィールドワークをしたり大学生とともにワークショップをしたりと、今まで皆さんが考えていた、したいこと・しなければならないことが整理されたものが出来上がったと思います。

アクションプランも5つ、出てまいりましたので、何かが起きたときにはこの方針に立ち返ることになると思います。ただ、これからの5年間ですべてが上手く進むわけではないと思いますので、この中でも優先順位をつけながらPDCAを回すという繰り返しが必要だと思います。また、具体的な事業に落とし込むことが必要であると思います。4月早々から進めていくことができるように、準備をしていくことも必要です。企業運営の観点を地域にも当てはめて、地域経営としてしっかり考える方が良いと思います。ビジョンの中でもあります、「体験」や「食」を活用し、しっかりとお金を落としていくことにつなげていけると良いと思っています。

<委員>

このようなビジョン策定の一員として参加できたことを非常にありがたく思っています。今後も官民一体で進めるとのことで、参加できたことが良かったと思っています。

ファンを増やす、地域力を向上させる、というところで、これまで話し合いをしてきたことが形にできるように努めていきたいと思っています。また、このビジョンとともに成長していきたいと思っています。ありがとうございました。

<委員>

1年半くらいをかけて策定をしてきましたが、今は、土を耕して種を蒔いているというような時期だと思います。これからもこのような話し合いの場が続いていけば良いと思います。また、みんなが儲かる仕組みができればと思っています。

食や体験など、ここにしかないものをもう一度探して、古市まで来て、あと1駅、来てもらうための仕組みが必要だと思っています。民間企業の方と協働していけると良いと思います。

<会長>

最後に事務局からもお願いします。

<事務局>

みなさま、約2年間の長きにわたり貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

今後の流れとしては、観光ビジョンの策定をし、本来は令和2年4月1日からビジョンに沿って事業を進めてまいります。通常、令和2年度の補正予算で新たな事業を展開していく、もしくは令和2年度に実施計画を立てて、令和3年度から実際にスタートさせていきます。しかし今回は、素案が早く固まっていたので、重点の3つについては、予算要望をしています。それに加え、令和2年度に実施計画を立てていければと思っています。これから、ビジョンの見直しなどもあるかと思うので、またみなさまに相談にのっていただければと思います。ありがとうございました。

<会長>

ありがとうございました。今回、委員会の意見としてまとめたものが完成したことになりますが、これからも続いていくと良いという話もありますし、2ページに必要に応じて見直すことが書かれていますので、関係者の皆様に集まっていただいて、出来てきたことの報告をするような場があっても良いと思います。私自身も勉強させていただけるご意見をたくさん頂戴しました。今後も富田林市に関わり協力していただきたいと思います。

富田林市に関わっていた前任の先生のお言葉の中で印象的だったのが、「自分自身が楽しまないとダメだ」ということでした。私はこの2年間、楽しかったです。観光を仕掛ける側が楽しまないと、楽しませることができないと思います。会長としての私は若輩者でしたけれども、皆様のおかげをもってして、富田林市らしい、みんなでつくってこうというビジョンができたと思っています。繰り返しになりますが、皆様におかれましては、これからのご協力をお願いしまして、この場をしめさせていただきたいと思います。どうも2年間、ありがとうございました。

それでは事務局にお返しいたします。

<事務局>

会長、ありがとうございました。皆様におかれましては、貴重なご意見をありがとうございました。本日頂戴したご意見は、庁内で確認をし、3月末に富田林市観光ビジョンの完成を予定しております。以上をもちまして、委員会を終了させていただきます。本日

は、ありがとうございました。